八王子学園都市大学いちょう塾への提供講座

第七回古代史セミナー　～古田武彦先生を囲んで～

日本古代史　新考

自由自在（その3）

◆開催日：2010年11月6日（土）～7日（日）　1泊2日
◆場　所：八王子セミナーハウス（東京都八王子市下柚木1987－1）
◆主　催：財団法人　大学セミナーハウス

（昨年のセミナー風景）

日本古代史　新考　自由自在（その3）

一

わたしは恵まれている。なぜか。―望むものをえたからである。

わたしにとって、歴史の探求とは、自己の不審を解くためだった。たとえば「邪馬台国」問題。近畿か、九州か、沖縄か。日本列島各地に候補地がありながら、決着がつかないのは、なぜか。

たとえば、「日出ずる処の天子云々」の直前に「阿蘇山あり、云々」の風土描写があるのは、なぜか。

たとえば、この天子には「雞弥(きみ)」という妻がいる。それなのに、同時代の近畿の王者は女性。推古天皇だ。なぜ「男性」と「女性」が同一人なのか。

数え上げれば、きりもない「？」に一つ、ひとつ挑戦してきた。たった一人の、自分の「疑い」を解こうとしてきた。それだけだった。

それが解けた。かっての「？」は、少なくとも、わたし自身には、不審ではなくなった。

なぜなら、七世紀の「白村江の敗戦」のとき、延々と“連ねられ”ていた「神籠石」あの古代山城群は、近畿の「大和」を“取り巻いて”いはしなかった。「筑紫」の太宰府と筑後川流域を“取り巻いて”いること、疑いようもなかったからである。

あれや、これやの瀬戸内海沿岸の「山城群」をプラスした図を“作って”みても、いかんせん、近畿の「大和」を“取り巻く”図にはできなかったのである。――ことは終った。やはり日本書紀や続日本紀に、この神籠石山城群の“営々たる築造努力”が一切書かれていない理由は、明白だ。日本書紀や続日本紀を“作った”権力、いわゆる「近畿天皇家の手」による造営ではなかったからだ。

どのように、学者たちが「小細工」をこらしてみても、「九州王朝」の概念なしには、全く説明不可能なのである。

逆に、「九州王朝説」「多元説」に立つ場合、新たな課題と思いがけぬ歴史の発展が続出する。止むときがない。盛況の朝夕だ。

だが、今年の十一月、すでに八十四歳を迎えるわたしに、果たして残された寿命があるか。

――なくてもO･K。今のわたしの最終の希望、それは「死」。これこそ絶対に裏切られることのない、大自然との約束ごとなのであるから。

二

けれども、天がなお、わたしに余命を与えるとすれば、何をわたしに対して望んでいるのだろう。

もちろん、日本の歴史の「一変」は不可避だ。現代の国家が、明治維新以降のその「公的見解」が。近畿天皇家一元主義の「一色」で塗りつぶされていても、それは「いっときの栄華」にすぎぬ。百三十年は、悠久なる歴史の中の一瞬の“おごり”の時にすぎないであろう。

三

日本だけではない。

世界各国の「国家の歴史」もまた、同断だ。自家の「国益」によって、「自家の歴史」によって、「国家」や「宗派」の歴史を作り、配下の人々を“洗脳”してきたのである。

そのあげく、何千発も、否、それ以上の原水爆を“かかえ”る地球、それを「合法」と稱する地球が、今は「自己の存在」に苦しんでいる。

もし、この人類を作った神がいるならば、「人類は、わたしの失敗作だった。」そう言って歎いているかもしれぬ。この地球の破滅こそ、造り主の希望となっていよう。

だが、わたしは反対する。人間の中に、ささやかな、一片の良心の存在したことを、造物主に対して明晰に証明したいと思う。

その余命は残されているか、否か。わたしは知らない。　　（古田　武彦）

【スケジュール】

第1日　11月6　日（土）		第2日　11月7 日（日）	
9：45～	受付	8：00～ 9：00	朝食・チェックアウト
10：15～10：30	開会	9：30～12：00	講演と質疑応答
10：30～12：00	講演と質疑応答	12：00～13：00	昼食
12：00～13：00	昼食	13：15～15：15	講演と質疑応答
13：30～15：30	講演と質疑応答	15：15～15：30	休憩
15：30～16：00	記念撮影･コーヒーブレイク	15：30～17：30	講演と質疑応答
16：00～17：45	講演と質疑応答	17：30	閉会
18：00～19：00	夕食		
19：30～21：30	懇親会「古田武彦先生を囲んで」		

【古田武彦先生略歴】

1926年　福島県に生まれ、広島県で育つ
1945年　旧制広島高校を経て東北大学に入学
　　村岡典嗣に師事
1948年　東北大学法文学部日本思想史科卒業
1948年　長野県松本深志高等学校教諭
1984年　昭和薬科大学教授
1996年　同上定年退職後、京都府に在住

古田武彦先生
歴史学者・元昭和薬科大学教授

【著書】

『「邪馬台国」はなかった』（朝日新聞社、1971年）
『失われた九州王朝』（朝日新聞社、1973年）
『盗まれた神話』（朝日新聞社、1975年）
『古代は輝いていた』全３巻（朝日新聞社、1984～85年）
『「君が代」は九州王朝の讃歌』（新泉社、1990年）
『日本古代新史』（新泉社、1991年）
『人麿の運命』（原書房、1994年）
『古代史の未来』（明石書店、1998年）
『古代史の十字路―万葉批判』（東洋書林、2001年）
『壬申大乱』（東洋書林、2001年）
『古田武彦著作集親鸞･思想史研究編』全３巻（明石書店、2002年）
『なかった　真実の歴史学』（ミネルヴァ書房、2006年創刊号、2009年初め第六号）
『「邪馬台国」はなかった―解読された倭人伝の謎』（ミネルヴァ書房、2010年復刊）
『失われた九州王朝―天皇家以前の古代史』（ミネルヴァ書房、2010年復刊）
『盗まれた神話―記・紀の秘密』（ミネルヴァ書房、2010年復刊）
『邪馬壹国の論理―古代に真実を求めて』（ミネルヴァ書房、2010年復刊）
/他多数。

【DVD】

『701 人麻呂の歌に隠された九州王朝』（㈱アンジュ・ド・ボーテ ホールディングス、2010年）

【実行委員】（コーディネーター）

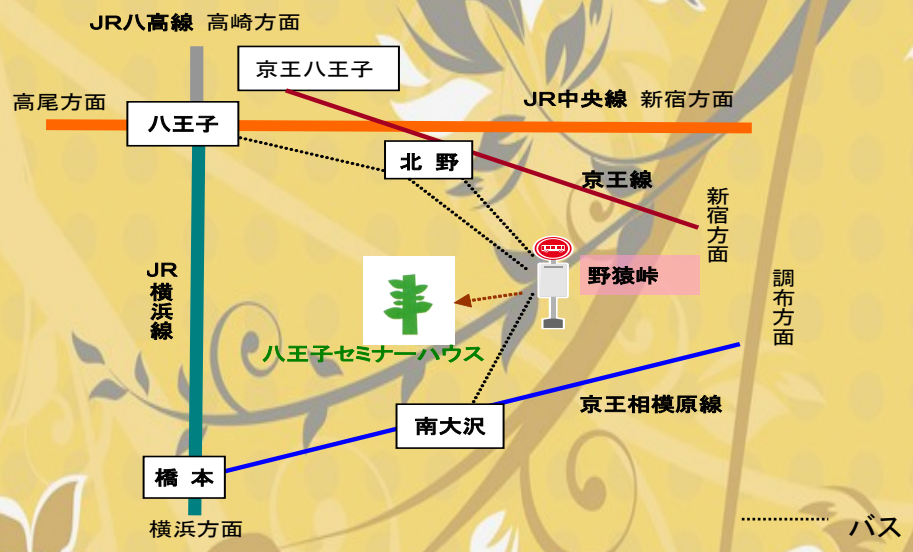
荻上紘一（数学者）

大学評価・学位授与機構教授、東京都立大学元総長
大学セミナーハウス館長
☆古田先生の著作をほとんど読破し、「弟子」と自認している。

【募集要項】

募集人員：60名
参 加 費：21,000円（税・宿泊・食事代・資料代を含む）、学生10,500円
申込方法：〇申込書に必要事項をご記入の上、下記宛にFAXまたはホームページ掲載の申し込みフォームよりお申し込みください。
〇ご参加の確定した方には参加決定通知及び当日のご案内などをお送り致します。
〇１週間以内に連絡のない場合はお手数ですがお電話でご確認ください。
申込締切：2010 年10月30日（土）（定員になり次第締め切ります。）
そ の 他：当ハウスは一般の宿泊施設としてもご利用頂いております。セミナーの前日、またセミナー終了後、宿泊を希望される方は前もってご連絡ください。

【交通案内】



①羽田→京王線北野駅下車
◆羽田→浜松町（東京モノレール23分470円）→新宿（JR山手線29分190円）→北野（京王線準特急40分330円）
◆羽田→品川（京急空港線11分、→蒲田線8分、計400円）→新宿（JR山手線外回り18分190円）→北野（京王線準特急40分、通勤快速50分330円）
❊北野駅からバス―「野猿峠」下車（10分170円）、徒歩5分

②東京駅→JR八王子駅下車（JR中央線特別快速50分780円）
❊八王子駅南口からバス―「野猿峠」下車（20分200円）、徒歩5分

③車ご利用の場合
中央高速道八王子I.C.より、八王子バイパス又は国道16号線で京王線北野駅方面へ8km、打越信号を経由し野猿街道へ、野猿峠信号を右折、約300m。

【お問い合わせ】
(財)大学セミナーハウス・企画広報課
〒192-0372　東京都八王子市下柚木1987－１
TEL：042-676-8532（直通）　FAX：042-676-1220
E-mail：kikaku-koho@seminarhouse.or.jp
URL：http://www.seminarhouse.or.jp